

令和 4 年度評価・意見一覧表 (地方独立行政法人岩手県工業技術センター令和 4 事業年度評価)

II 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項				各項目の平均点により評価
				県評価 A
小項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
震災復興への支援	A	A (4.0)	<ul style="list-style-type: none"> 震災から 12 年が経過し、年々支援のかたちが進化しているのは理解できる。一方で、震災復興から 12 年経過しているのに、新規に支援企業数があるのは、これまで支援の手が届かなかったと考えることもできる。重点支援企業数の目標達成も重要であるが、震災復興支援企業がゼロになるのが最終目標到達と考える。支援完了(=真に自立ができた)企業数が増えることも目標値に取り入れてはどうか。 	A
技術相談	A	A (4.1)	<ul style="list-style-type: none"> 数値計画を全般的に大きく達成しており、AA に近い印象です。既存・新規利用かに限らず利用者が増加することは良い傾向かと思いますが、県内外企業に広く周知され、相談利用される存在であってほしいと思いますので新規利用者の割合・推移等も注視して頂けるとなお良いかと思いますが(増加要因がコロナが落ち着いた反動なのか、広く周知され純粋に利用者が増えているのか、分析は難しいかと思いますが、傾向が分かれば AA で良いと思いました) 	A
依頼試験等	A	A (4.2)	<ul style="list-style-type: none"> 数値計画を全般的に大きく達成しており、AA に近い印象です。既存・新規利用かに限らず利用者が増加することは良い傾向かと思いますが、県内外企業に広く周知され、相談利用される存在であってほしいと思いますので新規利用者の割合・推移等も注視して頂けるとなお良いかと思いますが(増加要因がコロナが落ち着いた反動なのか、広く周知され純粋に利用者が増えているのか、分析は難しいかと思いますが、傾向が分かれば AA で良いと思いました) 利用企業の満足度が 99%であることは特質すべき点である。どちらともいえないが 1 件あるが、どういう理由でそれが選択されたのかを分析してほしい。 	A
設備機器貸出	A	A (4.2)	<ul style="list-style-type: none"> 利用企業の満足度が 99%であることは特質すべき点である。一方で、企業活動への技術支援に対し、その PR のための YouTube 紹介に、子供たちが科学技術に感心を示すようなコンテンツを配信することについては、「7. 情報発信の促進」で評価する内容だと思う。 	A

小項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
県政課題等解決のための重点研究	A	A (4.2)	<ul style="list-style-type: none"> ものづくり DX システム導入支援強化による多様な研究開発を展開し、たとえば産学官共同研究プロジェクト（地域イノベーション・エコシステム形成プログラム）など、県政課題等解決の促進に成果があったことを確認する。また研究テーマ 13 県のすべてが外部資金テーマであることも評価できる。 	A
企業ニーズに対応した共同研究及び受託研究	A	A (4.0)		A
技術シーズ創生のための研究	A	A (4.2)	<ul style="list-style-type: none"> 成果展開研究テーマ数が 24 件達成し、目標とした 10 件を大きく超えている。また、発展研究テーマも、木材チップを利用した燻製香研究など、企業との共同研究や外部資金応募に繋がるとり組みが進められ、今後の展開基盤を形成した。 	A
研究成果の事業化支援	A	A (4.0)	<ul style="list-style-type: none"> 進行状況報告や自己評価について、数値目標を達成した、ということのみの記載なのが少し気になりました。他項目のところで触れられていると思うので、再掲で良いので記載されていると良いと思います。 	A
知的財産の創造・保護・活用	B	B (3.0)	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産創出件数について、目標数値に達しなかったことの事情は理解するが、次年度以降の目標達成促進に向けた過程指標（評点）として、今年度はB評価とする。 目標 8 件に対し、6 件の内、共同研究先との調整で達成出来なかった事は非常に残念な結果だが、今年度は共同研究先とスケジュールを作成し、チェック、アクションを実践し、年度内に目標達成することが必須である。 自己評価 B は妥当である判断します。 知的財産創出件数だけで自己評価をしている。知的財産の保護、活用について記載がなかったが、この点も評価にはいっているのだろうか。 年度によって変動があること、期間を要することなどから、単年度での数値目標達成は難しい面があるとのことで、仕方がない面があり、Aに近いものかと思いましたが、そのままBとさせて頂きました。 	B

小項目	自己 評価	委員 評価	委員コメント	県評価
ものづくり産業への支援	A	A (4.2)	<ul style="list-style-type: none"> ものづくり産業への支援は本センターの重要な使命であり、令和4年度の実績はこれらを十分に果たしていると評価する。 岩手県内企業のニーズに沿い支援することも工業技術センターの担いであることを認識し、引き続き県内企業の技術向上に寄与していただきたい。 	A
地場産業への支援	A	A (4.2)	<ul style="list-style-type: none"> 地場産業への支援は本センターの重要な使命であり、令和4年度の実績はこれを十分に果たしている。たとえば県が推進する地場産業振興施策に参画し、地域資源活用や海外展開への技術移転に成果をあげている。またこれらとり組みのニュース性は高く、マスコミ等の報道も確認している。これらのことからAAと評価する。 	A
企業人材の技術高度化支援	A	A (4.0)	<ul style="list-style-type: none"> 【今後期待することとして】人材育成に向けて開催した講習会・研究会など参加者からの満足度は極めて高いことを評価する。今後はさらに、人材育成支援した参加者の資格獲得状況や就職状況、研究実績などを追跡調査した派遣先からの実績報告依頼などを把握できれば、このとり組み成果のさらなる検証・確認が可能となる。(講習会参加満足度だけでは、取組成果を確認する上で限界がある) 音声小さく聞こえなかった等の不満点の改善にはすぐに取り組みそうですので、今後検討頂ければと思います。 	A
次代を担う産業人材の育成	A	A (4.0)	<ul style="list-style-type: none"> 【今後期待することとして】令和4年度は大学からのインターンシップ受け入れが無かった。このことは本事業にあたっての「絶対的必要要素」ではないが、次年度以降は大学からの受け入れも期待したい。(大学へのインターンシップ募集に向けた周知・広報もふくめて) 	A
連携・協働の推進	A	A (4.0)		A
情報発信の推進	A	A (4.0)	<ul style="list-style-type: none"> 年々着々とアクセス数が増加されていて、素晴らしいと思います。こういった部分が良かったのか、分析しながら、より良い情報発信をしていって頂ければと思います。発信のネタとしては、普段見られないようなマニアックな面なども需要があるように感じます。 	A

Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する事項				各項目の平均点により評価
				県評価 A
小項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
組織運営の改善	A	A (4.0)	・【確認】進行状況報告にあつて「管理マネジメント支援プログラム」を実施し、管理者のマネジメントの改善に反映させた」と記載があるが、その具体的内容や成果が不明瞭ではある。	A
効果的・効率的な事務処理	A	A (4.0)		A
職員の意欲向上と能力開発	A	A (3.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・職員向けのアンケートで、全ての項目に「そう思う」の評点が付くことは目的ではなく、個々の意見を吸い上げ、職員の能力向上や満足度に向け取り組むべき事項である。また「そう思う」、「ややそう思う」の項目は合計するべきではない。可能であればアンケートも開示しても良いと思う。 ・職員満足度アンケートにおいて、「そう思う」と「ややそう思う」の割合を足して77.2%と評価するのは問題がある。優秀な職員を表彰するのはある種、当然のことだ。ただそういう職員は全体の一握りにすぎない。職員全体の意欲向上、能力開発には、意見交換会やヒアリングなど定期的におこない、アンケートだけでは見えない声を聴くことが必要である。 	A
環境・安全衛生マネジメント及び職場環境の充実	A	A (3.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・【次年度以降の留意事項】エネルギーの使用量、経費については、社会状況の変化により価格が変動し、経費もそれに左右される。環境的理由や経費削減の理由から、使用量・経費の抑制は必要であるが、それによってセンター事業が萎縮しないよう、毎年度、状況に応じたエネルギー使用料・経費の柔軟な目標設定が必要であろう。その視点を配慮して年度評価や期間評価をしたい。 ・職員のダイバーシティに関わる内容の評価は、環境・安全マネジメントと性質が異なるものであり、項目を分けるべきである。評価は別におこなう必要がある。 	A
コンプライアンスの徹底及び社会貢献活動への取組	A	A (4.0)	・コンプライアンスに関わることと、社会貢献活動への取り組みは、性質が異なる項目であり、項目は分けて評価すべきである。	A

IV 財務内容の改善に関する事項				各項目の平均点により評価
				県評価 B
小項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
外部研究資金の活用と自己収入の確保	B	B (3.2)	<ul style="list-style-type: none"> ・【自己評価と異なる理由】「手数料・使用料」は前年度限自己収入額よりも減じているが、他県施設の設備新設の影響により、やむを得なかったと判断する。ただし、このことをふまえて次年度以降の目標設定や、事業展開を推進する必要がある。 ・外的要因で目標達成出来なかったことは、今年度にも影響があると想定する。他の機器使用料でカバーするなど見直しを図り目標達成に向け策定することも考えるべき。 ・自己評価Bは妥当である判断します。来期以降を見据えてですが、自己収入確保は継続的な課題だと思いますし、今年度は他県の影響を受けたということが一時的な要因ではない印象がございましたので、原因と顧客ニーズをしっかりと分析され、試験研究機器の整備を含めた各種対応策を実行されることを期待致します。 ・数々の支援について、計画の進捗状況で目標達成、自己評価はA評価としている。一方で、IV財務内容の改善に関する事項のうち、自己収入の確保について自己評価はB評価としている。本来、双方は、同じレベルの評価になるべきで、そうならない場合、1件あたりの手数料収益、使用料収益などを見直す必要がある。 ・これまでの稼ぎ頭だった分野での収入源は、かなり大きな問題かと思えます。本当に他県の新施設が原因であれば、今後の方針に関わる部分かと思えます。新施設を作るのか、違う分野を増強するのか、H I Hでの収入を強化するのか、どれもすぐに改善できそうな問題ではないため、早めの検討が必要なように感じます。 	B
経費の抑制	A	A (4.0)	<ul style="list-style-type: none"> ・【留意事項 (No. 19 コメントと同内容)】エネルギーの使用量、経費については、社会状況の変化により価格が変動し、経費もそれに左右される。環境的理由や経費削減の理由から、使用量・経費の抑制は必要であるが、それによってセンター事業が萎縮しないよう、毎年度、状況に応じたエネルギー使用料・経費の柔軟な目標設定が必要であろう。その視点を配慮して年度評価や期間評価をしたい。 ・ unnecessary電気の節約に努められていて素晴らしいと思えます。職員の方々の職務環境がそれによって悪化することのないような、良いバランスで続けて頂ければと思えます。 	A

VIII その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項			各項目の平均点により評価	
			県評価 A	
小項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
試験研究機器の整備・活用	A	A (4.0)		A
施設・設備の計画的な修繕・整備	A	A (4.0)	<ul style="list-style-type: none"> ・【留意点】 厳しい財務状況の中での本計画事業に取り組んだことを評価する。ただし、施設の老朽化が進み、修繕必要箇所も増大しているとのこと。老朽化を放置することは、安全管理上の大いなる懸念をもたらす、さらには職員の作業効率にも影響し、結果としてセンターの研究成果や各種実績に関わってくる。次年度以降は、県から適切な経費交付を要求し、県もそれに応え、それによって本センターの修繕・整備にかかる経費の「使用優先度」が上がる（高くなる）ことが望ましい。 	A
人事に関する計画	A	A (4.0)	<ul style="list-style-type: none"> ・【期待すること】 職員の能力向上の新しいメニューとして、大学院博士課程修学支援制度が創設されたことを評価する。現段階においては、まだその実績を確認できないが、今後、大学院博士課程の定員充足に悩む県内・近隣大学と良い連携を図り、協働してそれぞれに有益な成果が上がることを期待する。 	A
<p><総合評価コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度においては、計画項目全般において、適切に事業を展開し、順調な計画進行だったと評価する。中期計画2年目ということもあり、AA評価の実績は目立つものではないが、「企業活動への技術支援」、「戦略的な研究開発」、「技術シーズ創生研究」、「研究成果の事業化支援」など地域企業等への技術面からの支援に着実な成果をあげている。これらをふまえ、次年度はさらなる進捗と顕著な成果があがることを期待する。 ・中期計画達成を見据えた令和4年度計画の結果の努力がよく分かります。評価Aのものでも更に高みを目指し計画を策定し工業技術センターの強みをより強固なものにしてもらいたい。 また、評価B項目については、見直すべき項目は見直しを実施し、PDCAサイクルを回し、次年度は自己評価Aを達成できるよう期待する。 ・全般的に数値目標を達成されていることは評価されるべきものであると考えます。他方アンケート結果について意見が出ておりまし 				

たが（私も昨年ご質問させて頂きました）、こちらも継続的な検討課題ではないかと思いますが、高評価ではなかった少数派の結果の分析もさらなる顧客満足度の向上や顧客ニーズの把握を通じて件数拡大につながる可能性があると思いますので適宜フォローして頂くと良いかと思いました。

- ・令和四事業年度は、ほぼ全ての項目で、計画通り進んでいると思われます。

「知的財産の創造」については、当該センターのご尽力だけでは実を結ばず、利用企業側の都合や考え方、目標などに帰するところもあると拝察致しますので、その部分についてはもう少し評点が高くてもよいのかなと思いました。知的財産創出件数だけで評価するのは難しいと思いました。

評価項目と内容がマッチしていない、あるいは、全く性質の異なる評価項目通しが一緒になっている項目がいくつか見受けられましたので、できれば、見直しをご検討いただきたく存じます。

ダイバーシティに関する評価は、健全な事業所であるかを判断するための重要なバロメーターであり、項目を設けた評価をお願いしたいです。勿論、当該センターは健全な活動をされていると拝察いたしましたが、現状の評価項目を見ますと、「環境・安全衛生マネジメント及び職場環境の充実」の項目に押し込んでいるようにも見られます。多種多様に渡るその内容は、ワークライフバランスや子育て支援、女性研究者・技術者の支援、女性リーダー職支援、LGBT/SOGI、障がいや海外ルーツをもつ人への支援など幅広く深いものです。

- ・全体的に、数字が目標値を上回ったのでA、という評価だったかと思います。もちろんそれが基本ですし、そうあるべきですが、数字的にはクリアしたが、実はここが停滞している、ここが将来課題になりそうだ、といった部分や、大川委員が仰ったように、逆に数字はそれほどでもなかったが、長期的にみるとここは良い成果だった、というような、数字に捕らわれない部分での評価や展望も、まとめて頂けるとありがたいです。

色々な支援件数が着実に増えていて、県内企業にとって良い環境にあるように思います。

DX化も、工業技術センターさんのような社外の、かつ信頼できる組織からの指摘やアドバイスによって、やっとな動けるような企業も多いと思います。今後も積極的に続けて頂ければと思います。